



TITLE:

続香川県高見島のアクセント

AUTHOR(S):

中井, 幸比古

CITATION:

中井, 幸比古. 続香川県高見島のアクセント. 言語学研究 1985, 4: 1-17

ISSUE DATE:

1985-12-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/87914>

RIGHT:

続香川県高見島のアクセント

中 井 幸比古

話者をつとめて下さった長谷川みさゑ氏の御厚意に深く感謝いたします。

1. 本稿は、拙稿「香川県高見島のアクセント——名詞を中心に——」(国学院大学『国語研究』48, 1985。以下「前稿」)の続篇である。話者は、前稿と同じく、長谷川みさゑ氏である。本稿では、資料の提示に重点を置き、用言の所属語彙、諸活用形、用言につく付属語、6モーラ名詞の所属語彙を収める。

用言の所属語彙は、モーラ数(I, IIなどローマ数字)・音調型(甲, 乙...など。名称は仮りのもの)別とした。その内部では、五十音順としたが、金田一語彙については、類ごとに纏め、各類内部を五十音順に配列した。用言の諸活用形の名称・配列は、中井(1984b)(文献は前稿参照)に準ずる。名詞・付属語の配列は前稿に準ずる。

用言やそれにつく付属語のアクセントは、各々、名詞やそれにつく付属語のアクセント体系に収まる。

促音を含む音節[○]に核が置かれる場合(前稿 p. 20), 便宜上、原則として、促音の前のモーラに核があると表記した(前稿3節と中井(1984b)も同じ)。

用言の所属語彙は、上述のように、音調により、甲, 乙...に分けられる。甲, 乙...のうちのあるものは、さらに、音韻構造によって、a系列をとるものとb系列をとるものに細分される。それらを、たとえば甲a, 甲b...のように示す。

用言においても、原則として、前稿1.2節で述べた、a・b系列の音韻構造にかんする相補分布の条件が当てはまる。例外となる場合は、前稿に準じ、×印をつけて示す。

2. 前稿1.2節例外4(p. 19)の補足訂正。補足訂正した形で示す。

II IIIモーラ動詞, IIIモーラ動詞, IIIモーラ形容詞には、a・b系列の音韻構造の相補分布に、例外が見られる。

動詞(右側は意志)

III 乙 a	急ぐ	○広狭	0a	急ごか	○広広...	0a
	写す	○狭狭	0a	写そか	○狭広...	×0a
III 乙 b	通す	○B狭	0b	通そか	○B広...	0b

Ⅱ Ⅲ 乙(a)	建てる	○広狭	0a	建てよか	○広広...	0a
	起きる	○狭狭	0a	起きよか	○狭広...	\times 0a
(Ⅱ Ⅲ 乙 b)	(欠)	○B狭	(0b)	(欠)	○B広...	(0b)

形容詞(Ⅲ甲は省略)(右側は過去)

Ⅲ 乙(a)	白い	○広B	0a・2a	白かった	○広広...	2a・テ3
	熱い	○狭B	0a・2a	熱かった	○狭広...	\times 2a・テ3
(Ⅲ 乙 b)	(欠)	○BB	(0b・2b)	(欠)	○B広...	(2b・テ3)

上表に示したように、これらの用言において、○狭...という音韻構造をもつものは、第3モーラの音韻構造と無関係に、(a・b系列の区別があるアクセント型であれば)一貫してa系列が現れる。即ち、b系列が予想される○狭広(...)の場合にも、a系列(例外)となる。結局、これらにおいては、○狭...の語彙と○広...の語彙は、全活用形でその音調が同じになる。なお、○B...という音韻構造をもつものは、例外とならず、b系列が現れる(但し、調査語彙中に、○B...の単語がみつかっていないものもある)。

形容詞については、Ⅲモーラのうち、甲・乙ともに上述の例外が現れる。動詞については、Ⅱ Ⅲモーラ・Ⅲモーラのうち、Ⅱ Ⅲ乙とⅢ乙のみに例外が現れる：Ⅱ Ⅲ甲・Ⅲ甲・Ⅲ丙には、調査語彙にかんするかぎり、例外は現れない。即ち、Ⅱ Ⅲ甲動詞は、○広...の語彙がほとんどである。わずかに、「染みる」と「借りる」が○狭...であるが、各々「シュム」Ⅱ甲、「カル」Ⅱ甲が普通なので、終止・連体形以外未調査である。Ⅲ甲動詞については、○狭広...の場合、a・b系列の区別がないテ3型が現れることが多い。

Ⅱモーラや、ⅢⅣモーラ以上の、動詞や形容詞は、調査語彙にかんするかぎり、相補分布に従う。

さて、上述の例外は、次のように説明されよう：○狭狭(...)の活用形がa系列であることの類推で、○狭広(...)の活用形も、a系列で現れる。

3. アクセントの変遷について。前稿付記に関連して、本稿では、一応前稿の続篇という性格上、前稿1.2節で述べた変遷の過程の推論に従う。

用言のアクセントの変遷の過程は、名詞に準ずると考える。なお、「活用形」全体が1単位として変化したと考える。ただし、用言の場合、活用形によって、高見島アクセントと真鍋式アクセントが対応しないものがある。本稿では、①真鍋式アクセントと高見島アクセントの共通の祖形(前稿の「広島」の段階)と、②現在の高見島アクセントを併記し、現在の高見島のアクセントが祖形に対応しないときは、その左肩に△印をつけて示す。なお、変遷の過程を一々示すことはしない。

4. 「語幹」2モーラの形容動詞の音調について。前稿所属語彙中で触れたが、「語幹」

通時的には、名詞＋付属語の場合も、上述の形容動詞に準じて、付属語の音韻構造によって音調が変わるという段階を経たと考える：前稿 p. 23 表 7「中間段階」における、2＝テ2 型名詞＋付属語の音調がそれである。その後、2＝テ2 型の語（名詞）は 0a に変化したため、付属語の音韻構造は、音調に影響しなくなった。ところが、上述の形容動詞の場合は、「語幹」と「語尾」全体が 1 単位として、3 モーラ語の変化が適用されたため、現在も「語尾」の音韻構造が音調に影響する。この間のアクセント変化を下に示す。

テ2 ○「○」△(鼻に) $\begin{matrix} \nearrow \wedge \\ \searrow \neg \wedge \end{matrix} \rightarrow 0a$ ○「○」△
 テ2' ○○「△」(鼻が)

テ2 ○「○」△(ましに) $\xrightarrow{*}$ 2a ○「○」△
 テ2' ○○「△」(ましな) $\xrightarrow{=}$ テ3 ○○「△」

結局，形容動詞に関しては，「語幹」だけを独立させるか，「語幹」＋「語尾」全体を

1 単位とみなすかは、かなり微妙である。

5. 前稿 1.4 節 p. 21 で述べた、「1 = -1」の付属語の取り扱いについて。前稿では、「イ、エ」を 1 = -1 (ノ「ノ」) で解釈したが、むしろノ「ノ」(低起性)で解釈すべきであった。後者で解釈すれば、「鎌へ」カ「マ」エなども、「例外的な音調」ではなくなる。

6. 当初は、さらに調査を続けるつもりであったが、話者の方の御都合で、一応調査を打ち切ることとなった。甚だ不十分であるが、本稿で、高見島アクセントに関する報告の、一区切りとしたい。

〔動 詞〕

a 所属語彙(終止・連体形で示す。但し、
1 段活用のは略す)

ⅠⅡ：着、為、煮(タクⅡ甲)、寝(以上 1 類)、来、出、見(以上 2 類)。

Ⅱ甲：明(開)く、売、る、追、う、置、く、押、す、買、う、欠、く(カグ、茶わんを)、嗅、ぐ(カザムⅢ甲)、貸、す、刈、る、聞、く、汲、む、消、す、越、す、咲、く、敷、く、知、る、吸、う、透、く、添、う、焚、く、足、す、散、る、突、く、継、ぐ、積、む、摘、む、釣、る、問、う、飛、ぶ、泣、く、鳴、る、抜、く、塗、る、乗、る、履、く、張、る、貼、る、引、く、弾、く、退、く、拭、く、葺、く、踏、む、振、る、舞(眩)う、巻、く、向、く、揉、む、盛、る、焼、く、止、む、遣、る、行、く(イク)¹⁾、呼、ぶ、寄、る、沸、く、割、る(以上 1 類)、病、む(希)(以上 2 類)。

Ⅱ乙：産、む、織、る(以上 1 類)、合、う、飽、く、編、む、有、る、打、つ、膿、む、折、る、飼、う、書、く、勝、つ、噛、む、切、る、食、う、組、む、繰、る、扱、く(コグ、麦を)、漕、ぐ、裂、く、刺、す、住、む、澄(済)む、磨、る、剃、る、立、つ(人は、タテルⅢ甲)、断、つ、着、く、搗、く、照、る、解、く、研、ぐ、取、る、絢、う、成、る、生、る、縫、う、

脱、ぐ、練、る、の、す、飲、む、這、う、掃、く、吐、く、剥、ぐ、吹、く、降、る、干、す、掘、る、彫、る、蒔、く、待、つ、蒸、す(モス)、持、つ、漏、る、酔、う、読、む、繕、る(以上 2 類)、蹴、る(以上その他)。

Ⅱ丙：言、う(ユー)、結、う(ユー)(以上 1 類)、居、る(以上 3 類)。

Ⅱ丁²⁾：往、ぬ、る、死、ぬ、る(以上 1 類)。

ⅡⅢ甲：明(開)け、上、げ、当、て、荒、れ、入、れ、植、え、埋、め、欠、け(カゲ、茶わんが)、替、え、借、り(不使)(カルⅡ甲)、枯、れ、消、え、着、せ、暮、れ、呉、れ、越、え、染、み(不使)(シユムⅡ甲)、捨、て、染、め、漬、け、抜、け、濡、れ、乗、せ、腫、れ、惚、れ、負、け、燃、え、瘦、せ、止、め、寄、せ(以上 1 類)、提、げ(以上その他)。

ⅡⅢ乙：尽、き、曲、げ、咽、せ(以上 1 類)、和、え、生、き、飢、え(カツレⅢⅣ乙b)、受、け、起、き、落、ち、下、り、掛、け、兼、ね、肥、え、籠、め、冴、え、覚、め、締、め、過、ぎ、攻、め、建、て、垂、れ、詰、め、解、け、閉、じ、投、げ、撫、で、舐、め(ネブルⅢ乙)、馴、れ、逃、げ、延、び、化、け、恥、じ、跳、ね、晴、れ、老、け、伏、せ、吠、え、耄、け(ボレⅡⅢ乙)、誉、め、見、え、見、せ、漏、れ、

茹で、分け(以上2類)、下げ(以上その他)。

Ⅲ甲：明かす、上がる、遊ぶ、当たる、洗う、荒らす、浮かぶ、歌う、送る、贈る、威す、踊る、終わる、屈む(カゴム)、囲う、囲む、飾る、語る(浄瑠璃)、通う、枯らす、変わる、代わる、刻む、嫌う、括る、下だす、下だる、食らう、削る、殺す、捜す、探る、晒らす、触わる、沈む、慕う、掬う、救う、濯ぐ(イスグ)、進む、曇む、違う、使う、続く、繋ぐ、積もる、飛ばす、名乗る、鳴らす、並ぶ、握る、濡らす、眠る(ネルⅠⅡが普)、覗く、昇る、運ぶ、外す、拾う(ヒラウ)、塞ぐ、振う(体が)、祭る、向かう、迄る、結ぶ、貰う、歪む(イガム)、揺る、譲る、沸かす、渡す、渡る、笑う(以上1類)、奪う、被る(水を)、構う(人に)、過ごす、手操る(タグル)、懐く、匂う(vi, vt)、僻む(以上2類)、歩く、隠す(以上3類)。

Ⅲ乙a：暮らす、悟る、望む、曲がる、学ぶ、磨く、譲る(以上1類)、扇ぐ、余す、余る、急ぐ、痛む、祈る、祝う、動く(イゴク)、移(写)す、移(写)る、恨む、潤む、描く、選ぶ、拝む、起こす、起こる、惜しむ、落とす、思う、泳ぐ(オイグⅢ乙b)³⁾、下ろす、返す(カヤス、上下を。返却はモドスⅢ乙a)、掛かる、限る、稼ぐ、担ぐ(カタグ)、叶う、絡む、乾く、潜る、挫く、崩す、砕く、口説く、曇る、狂う、好む、溢す(マクⅡ乙)、下がる、騒ぐ、しのぐ(雨露を)、縛る、絞る、滑る、澄(済)ます、育つ、倒す、叩く、頼む、擲む、作る、包

む、尖る(トギル)、届く、直す、直る、流す、歎く、懐く、靡く、颯る、悩む、習う、憎む、濁る、睨む(ネラム)、盗む、嫉む、遺(残)す、遺(残)る、延ばす、計る、励む、挟む、弾く、走る、払う、孕む、光る、捻る、響く、開らく、含む(水を口に)、防ぐ、肥る、交じる、守る、迷う、戻る⁴⁾、漏らす(小便はチビルⅢ乙a)、休む、雇う、破る、許す、弛む(以上2類)。

Ⅲ乙b：~~×~~帰る⁵⁾、~~×~~孵る⁵⁾、通す、通る(以上2類)。

Ⅲ丙：入る、参る(以上3類)。

ⅢⅣ甲：呆れ、慌て、浮べ、生れ、後れ、教え、重ね、固め、聞え、比べ、勧め、爛れ、仕え、並べ、始め、外れ、拵げ、膨れ、亡び、迎え、忘れ(以上1類)、絡げ、委せ(マカスⅢ甲)(以上2類)、抱え、隠れ、支え、捧げ、捕え(ツカマエルⅣⅤ甲)(以上3類)。

ⅢⅣ乙a：萎れ、纏め(以上1類)、合せ、納め、覚え、数え、構え(準備)、汚れ、答え(応も)、零れ(マケⅡⅢ乙)、壊れ(メゲⅡⅢ甲)、調べ、供え、倒れ、譬え、束ね、疲れ、務(勤)め、流れ、宥め、離れ、開け、弘め、隔て、乱れ、求め、別れ(以上2類)。

ⅢⅣ乙b：預け、集め、被せ、崩れ、痺れ、助け、尋ね(タンネ)、紛れ、儲け、破れ(以上2類)。

ⅢⅣ丙：伝え(以上1類)、抑(押)え(以上2類)。

Ⅳ甲：落ち込む、噛みつく、食べだす、始まる、働く。**Ⅳ乙a**：謝る、泡立つ、動か

す、裏切る、断る、喜ぶ。**V乙b**：集まる、
間ちがう。**V丙1**：行き合う、売り出す、
踏み抜く。**V丙2**：居直る、枯れだす、着
飾る、見なおす。**VV甲**：暖ため。**VV乙a**
：憧れ。**VV乙b**：あきらめ。**VV丙1**：
見ちがえ。**VV丙2**：出始め。**V甲**：教え
こむ。**V乙a**：写し出す。(以下略)。

VV甲	暖める	テ2	テ3
VV乙a	憧れる	3か	△3a
VV乙b	諦める	3か	△3b
VV丙1	見違える	1	1
VV丙2	出始める	1	2a
V甲	教えこむ	テ2	テ3
V乙a	写しだす	3か	△3a

b 終止連体

		祖形	高見
I II	着る ⁶⁾	テ0	テ0
II 甲(1類)	焼く	テ2か	△テ0
II 乙(2類)	編む	テ0	テ0
II 丙(3類他)	居る ^オ	1	1
	言う ^ユ ⁶⁾	1	1
II 丁	往ぬる	1	2a
	死ぬる ⁶⁾	テ2	2a
II Ⅲ甲(1類)	開ける	テ2	2a
II Ⅲ乙(2類)	受ける	0	0a
Ⅲ甲(1・3類)	渡す、歌う	テ2	2a
Ⅲ乙a(2類1部)	写す	0	0a
Ⅲ乙b(2類1部)	通す	0	0b
Ⅲ丙	入る	テ2	△1
ⅢⅣ甲(1類)	並べる	テ2	テ3
ⅢⅣ乙a(2類1部)	数える	0か 3か	0a
ⅢⅣ乙b(2類1部)	集める	0か 3か	0b
ⅢⅣ丙	抑える	1	2a
Ⅳ甲	働く	テ2	テ3
Ⅳ乙a	喜ぶ	3か	3a
Ⅳ乙b	集まる	3か	3b
Ⅳ丙1	売出す	1	1
Ⅳ丙2	着飾る	1	2a

c 過去⁷⁾

	祖形	高見
着た	1	△テ0
焼いた	1	1
編んだ	テ0	テ0
居った	1	1
言うた	1	1
往んだ	1	1
死んだ	1	1
開けた	1	2a
受けた	テ0	テ0
渡した	テ2	2a
ウトタ(歌)	1	2a
写した	0か 3か	0a
通した	0か 3か	0b
入った	テ2	△1
並べた	テ2	テ3
数えた	0か 3か	0a
集めた	0か 3か	0b
抑えた	1	2a
働いた	テ2	テ3
喜んだ	3か	3a
集まった	3か	3b
売出した	1	1

着飾った	1	2a	暖めん ⁹⁾	テ2	テ3	言える(可)	テ2	2a
暖めた	テ2	テ3	憧れん ⁹⁾	3か	△3a	開けられる	テ2	テ3
憧れた	3か	△3a	諦めん ⁹⁾	3か	△3b	受けられる	3か	△3a
諦めた	3か	△3b	見違えん ⁹⁾	1	1	渡される	テ2	テ3
見違えた	1	1	出始めん ⁹⁾	1	2a	渡せる(可)	テ2	テ3
出始めた	1	2a	教えこまん ⁹⁾	テ2	テ3	写される	3か	△×3a
教えこんだ	テ2	テ3	写し出さん ⁹⁾	3か	△3a	写せる(可)	0か 3か	×0a
写しだした	3か	△3a	e 打消過去 ¹⁰⁾			通される	3か	△3b
d 打 消						通せる(可)	0か 3か	0b
着ん	テ0	テ0	着なんだ	1	2a	入られる	テ2	テ3
焼かん	テ2	2a	焼かなんだ	テ2	テ3	入れる(可)	テ2	テ3
編まん	0	0a	編まなんだ	テ2か	テ3	並べられる	テ2	テ3
居らん	1	2a	居らなんだ	1	△テ3	数えられる	3か	4a
言わん	テ2	2a	言わなんだ	テ2	テ3	集められる	3か	4b
往なん ⁸⁾	?	2a	受けなんだ	テ2か	テ3	g f の過去 (f とアの異なるもののみ)		
死なん ⁸⁾	テ2	2a	渡さなんだ	テ2	テ3			
開けん	テ2	2a	写さなんだ	3か	×4a	焼けた	1	2a
受けん	0	0a	通さなんだ	3か	4b	編めた	テ0	テ0
渡さん	テ2	テ3	入らなんだ	テ2	テ3	居れた	1	2a
写さん	0か 3か	×0a	並べなんだ	テ2	テ3	言えた	1	2a
通さん	0か 3か	0b	数えなんだ	3か	4a	h 使 役		
入らん	テ2	テ3	集めなんだ	3か	4b			
並べん	テ2	テ3	f 可能自発受身 ¹¹⁾			着さす	テ2	2a
数えん	0か 3か	0a				焼かす	テ2	2a
集めん	0か 3か	0b	着られる	テ2	テ3	編ます	0	0a
抑えん ⁹⁾	1	2a	焼かれる	テ2	テ3	居らす	1	2a
働かん ⁹⁾	テ2	テ3	焼ける(可)	テ2	2a	言わす	テ2	2a
喜ばん ⁹⁾	3か	△3a	編まれる	0か 3か	0a	開けさす	テ2	テ3
集まらん ⁹⁾	3か	△3b	編める(可)	0	0a	受けさす	3か	△3a
売出さん ⁹⁾	1	1	居られる	1	△テ3	渡さす	テ2	テ3
着飾らん ⁹⁾	1	2a	居れる(可)	1	2a	写さす	3か	×3a
			言われる	テ2	テ3	通さす	3か	3b

入らす テ2 テ3
並べさす テ2 テ3
数えさす 3か 4a
集めさす 3か 4b

i 使役の過去

着さした テ2 2a
焼かした テ2 2a
編ました 0か 0a
 3か
居らした 1 2a
言わした テ2 2a
開けさした テ2 テ3
受けさした 3か 3a
渡さした テ2 テ3
写さした 3か ×3a
通さした 3か 3b
入らした テ2 テ3
並べさした テ2 テ3
数えさした 3か 4a
集めさした 3か 4b

j 希 望

着たい 1 2a
焼きたい テ2 △2b
 △3b
 テ3
編みたい 0か 同上
 3か
居りたい 1か 同上
 テ2か
言いたい 1か 同上
 テ2か
開けたい テ2 △2a
 △3a
 テ3
受けたい 0か 同上
 3か
渡したい テ2 △3a
 △4a
 △テ3
 △テ4

写したい テ2 △3a
 △4a
 △テ3
 △テ4
通したい 3か △3b
 4b
 △テ3
 △テ4
入りたい テ2 同上
並べたい テ2 テ3
 △テ4
 (△3aもか)
 (△4aもか)
数えたい 3か △3a
 4a
 △テ3
 △テ4
集めたい 3か △3b
 4b
 △テ3
 △テ4
K 希望の過去 (j と核の
位置同じゆえ省略)

l 単純接続

着て 1 △テ0
焼いて 1 1
編んで テ0 テ0
居って 1 1
言うて 1 1
開けて, ウテ(歌) 1 2a
受けて テ0 テ0
渡して テ2 2a
写して 0か 0a
 3か
通して 0か 0b
 3か
入って テ2 △1
並べて テ2 テ3
数えて 0か 0a
 3か
集めて 0か 0b
 3か

l' 補助用言に続ける

着て 1 △テ0
焼いて 1 △0b
 △テ0
編んで テ0 テ0
居って 1 △0b
 △テ0
言うて 1 同上
開けて, ウテ(歌) 1 △0a
 △テ0
受けて テ0 テ0
渡して テ2 △0a
 △テ0
写して 0か 0a
 3か
通して 0か 0b
 3か
入って テ2 △0b
 △テ0
並べて テ2 △テ0
数えて 0か 0a
 3か △テ0
集めて 0か 0b
 3か △テ0

m 完 了

着とる テ2 2a
焼いとる 1 △テ3
編んどる テ3 テ3
— — —
言うとる 1 1
開けとる 1 △テ3
受けとる テ3 テ3
渡しとる テ2 △テ4
ウトトル(歌) 1 △テ3
写しとる 3か 4a
通しとる 3か 4b
入っとる テ2 △テ4
並べとる テ2 テ3
 △テ4
数えとる 3か 4a
集めとる 3か 4b

n 完了の過去 (mと核の位置同じゆえ省略)			並べたり	テ2	テ3	写せーよ	3か	×3a
			数えたり	0か 3か	△3a	通せーよ	3か	3b
			集めたり	0か 3か	△3b	入れーよ	テ2	テ3
o 仮 定						並べーよ	テ2	テ3
着たら	1	2a	q 進 行			数えーよ	3か	3a
焼いたら	1	1	着よる	1	2a	集めーよ	3か	3b
編んだら	テ3	△テ3	焼っきよる	1	1			
居ったら	1	1	編んみよる	テ3	テ3	t 禁 止 ¹²⁾		
言うたら	1	1	—	—	—	着ーなよ	— ¹³⁾	2b
開けたら	1	2a	言 ^イ いよる	1	1	焼くなよ	テ2	テ3 △3b
受けたら	テ3	△テ3	開けよる	1	2a	編むなよ	0	△3b
渡したら	テ2	2a	受けよる	テ2	テ3	居 ^オ るなよ	1	1
ウトタラ (歌)	1	2a	渡っしよる	テ2	2a	言 ^ユ うなよ	1	1
写したら	0か 3か	△3a	歌いよる	テ2	2a	開けなよ	テ2	テ3 △3a
通したら	0か 3か	△3b	写っしよる	0か 3か	4a △3a	受けなよ	0	△3a
入ったら	テ2	△1	通っしよる	0か 3か	4b △3b	渡すなよ	テ2	2a
並べたら	テ2	テ3	入っりよる	テ2	△1	写すなよ	0か 3か	△3a
数えたら	0か 3か	△3a	並べよる	テ2	テ3	通すなよ	0か 3か	△3b
集めたら	0か 3か	△3b	数えよる	0か 3か	△3a	入るなよ	テ2	△1
			集めよる	0か 3か	△3b	並べなよ	テ2	テ3
p タリ / ダリ						数えなよ	0か 3か	△3a
着たり	1	2a	r 進行の過去 (qと核の位置同じゆえ省略)			集めなよ	0か 3か	△3b
焼いたり	1	1						
編んだり	テ3	テ3	s 命 令 ¹²⁾			u 意 志 ¹⁴⁾		
居ったり	1	1	着ーよ	1	1	着ろか	1	2a
言うたり	1	1	焼けーよ	1	2a	焼こか	1	2a
開けたり	1	2a	編めーよ	テ2	2a	編もか	テ2か 0か	△2a
受けたり	テ3	テ3	居れーよ	1	2a	居ろか	1	2a
渡したり	テ2	2a	言 ^イ えーよ	1	2a	言おか	1	2a
ウトタリ (歌)	1	2a	開けーよ	1	2a	開けろか	テ2	テ3
写したり	0か 3か	△3a	受けーよ	テ2	2a	受けろか	0	0a
通したり	0か 3か	△3b	渡せーよ	テ2	テ3	渡そか	テ2	テ3
入ったり	テ2	△1				写そか	0か 3か	×0a

通そか	0か 3か	0b	並べーで	テ2	テ3	集めもって	0か 3か	0b
入ろか	テ2	テ3	数えーで	0か 3か	3a	x 様 態		
並べろか	テ2	テ3	集めーで	0か 3か	3b			
数えろか	0か 3か	0a	w 「～しながら」			着そーな	1か	2a
集めろか	0か 3か	0b				焼きそーな	?	3b テ3もか
v 「～せずに」			着ーもって	?	テ0	編みそーな	0か 3か	テ3
			焼きもって	?	テ0 0bもか	居りそーな	?	3b (テ3もか)
着ーで	1	1	編みもって	?	テ0	言ーそーな	?	同上
焼かいで	1	2a	居りもって	?	テ0 0bもか	開けそーな	?	テ3 3aもか
編まいで	1か テ2か	2a	言ーもって	?	同上	受けそーな	0か 3か	テ3
居らいで	1	2a	開けもって	?	0a テ0もか	渡しそーな	テ2	△テ4
言わいで	1	2a	受けもって	?	テ0	写しそーな	0か 3か	4a
開けーで	1	2a	渡しもって	テ2	△テ0	通しそーな	同上	4b
受けーで	1か テ2か	2a	写しもって	0か 3か	0a	入りそーな	テ2	△テ4
渡さいで	テ2	テ3	通しもって	0か 3か	0b	並べそーな	テ2	△テ4
写さいで	0か 3か	×3a	入りもって	テ2	△テ0	数えそーな	0か 3か	4a
通さいで	0か 3か	3b	並べもって	テ2	△テ0	集めそーな	0か 3か	4b
入らいで	テ2	テ3	数えもって	0か 3か	0a			

〔形容詞〕

a 所属語彙（終止・連体形で示す）

Ⅱ甲：無い，良い（エー）（以上1類）。

Ⅱ乙：濃い，^コ酔い，^ス酔い（以上その他），オイ（多），オシ（惜），カイ（痒），トイ（遠），ホシ（欲），（以上Ⅲ＝2類）。

Ⅲ甲：赤い，浅い，厚い，甘い，荒い，薄い，遅い，重い，堅い，軽い，暗い，^{ツラ}辛い（以上1類），凄い，古い，脆い，緩い，悪い（以上2類）。

Ⅲ乙：青い，熱（暑）い，痛い，旨い（美味。上手の意ではⅢ甲），辛い，臭い，黒い，^{ツツ}強い（飯），寒い（サブリ），渋い，白い，狭い（セバイ），高い，近い，強い，長い，苦い，

鈍い，早い，低い，広い，深い，細い，安い，若い（以上2類）。

Ⅳ甲 a：怪しい，卑しい，悲しい（ツライⅢ甲），優しい，宜しい（以上1類），嬉しい，厳しい，悔しい，苦しい，淋しい（サビシー），親しい，涼しい，正しい，楽しい，乏しい，激しい，等しい（以上2類），明るい，危ない，重たい，気まずい，気安い，煙たい（ケブタイ），冷たい（チミタイ），どぎつい，平たい，分厚い（以上その他）。

Ⅳ甲 b：恋しい（以上2類）。

Ⅳ乙：黄色い（cf. 黄色 0b）（以上その他）。

b 終止連体

Ⅱ甲	無い	テ0	テ0
Ⅱ乙	濃い	1	1
Ⅲ甲(1類)	赤い	1	2a
Ⅲ乙(2類)	白い	0	$\Delta \begin{smallmatrix} 0 \\ 2a \end{smallmatrix}$
Ⅳ甲a	怪しい	—	$\begin{smallmatrix} \text{テ}3 \\ 2a \end{smallmatrix}$
Ⅳ甲b	恋しい	—	$\begin{smallmatrix} \text{テ}3 \\ 2b \end{smallmatrix}$
Ⅳ乙	黄色い	—	3b

c 過 去

無かった	1	2a
濃かった	1か	$\Delta \begin{smallmatrix} 1 \\ \text{テ}3 \end{smallmatrix}$
赤かった	1か	$\begin{smallmatrix} 2a \\ \Delta \text{テ}3 \end{smallmatrix}$
白かった	テ2	$\Delta \begin{smallmatrix} 2a \\ \text{テ}3 \end{smallmatrix}$
怪しかった	—	$\begin{smallmatrix} 2a \\ \text{テ}3 \end{smallmatrix}$
恋しかった	—	$\begin{smallmatrix} 2b \\ \text{テ}3 \end{smallmatrix}$
黄色かった ¹⁶⁾	—	3b

d 音便(～ナル)

(^な 無しん)	1	1
コーン(濃)	1	1
アコン(赤)	1	2a
シロン(白)	テ2か	2a
アヤシン(怪)	—	$\begin{smallmatrix} 2a \\ \text{テ}3 \end{smallmatrix}$
コイシン(恋)	—	$\begin{smallmatrix} 2b \\ \text{テ}3 \end{smallmatrix}$

e 音便(～テ)

ノーテ(無)	1	1
コーテ(濃)	1	1
アコーテ(赤)	1	2a
シローテ(白)	テ2か	2a
アヤシーテ(怪)	—	$\begin{smallmatrix} 2a \\ \text{テ}3 \end{smallmatrix}$
コイシーテ(恋)	—	$\begin{smallmatrix} 2b \\ \text{テ}3 \end{smallmatrix}$

f 仮 定

無かったら	1	2a
濃かったら	1か	$\Delta \begin{smallmatrix} 1 \\ \text{テ}3 \end{smallmatrix}$
赤かったら	1か	$\begin{smallmatrix} 2a \\ \Delta \text{テ}3 \end{smallmatrix}$
白かったら	テ2	$\Delta \begin{smallmatrix} 2a \\ \text{テ}3 \end{smallmatrix}$
怪しかったら	—	$\begin{smallmatrix} 2a \\ \text{テ}3 \end{smallmatrix}$
恋しかったら	—	$\begin{smallmatrix} 2b \\ \text{テ}3 \end{smallmatrix}$

g ～ タ リ

無かったり	1	2a
濃かったり	1か	$\Delta \begin{smallmatrix} 1 \\ \text{テ}3 \end{smallmatrix}$
赤かったり	1か	$\begin{smallmatrix} 2a \\ \Delta \text{テ}3 \end{smallmatrix}$
白かったり	テ2	$\Delta \begin{smallmatrix} 2a \\ \text{テ}3 \end{smallmatrix}$
怪しかったり	—	$\begin{smallmatrix} 2a \\ \text{テ}3 \end{smallmatrix}$
恋しかったり	—	$\begin{smallmatrix} 2b \\ \text{テ}3 \end{smallmatrix}$

h 推 量

無かろー	1	$\Delta \text{テ}3$
濃いかろー	1か	$\Delta \begin{smallmatrix} 1 \\ \text{テ}3 \end{smallmatrix}$
赤かろー	1か	$\begin{smallmatrix} 2a \\ \Delta \text{テ}3 \end{smallmatrix}$
白かろー	テ2	$\Delta \begin{smallmatrix} 2a \\ \text{テ}3 \end{smallmatrix}$
怪しかろー	—	$\begin{smallmatrix} 2a \\ \text{テ}3 \end{smallmatrix}$
恋しかろー	—	$\begin{smallmatrix} 2b \\ \text{テ}3 \end{smallmatrix}$

[用言につく付属語]¹⁷⁾

ガ(←)(じゃないか, 終助)	1
ド(←)(ぞ, 終助)	1
ナ(←)(終助, 間投助)	1
ニ(行く～行かれん)	0
ノ(←)(終助, 間投助)	1
ケニ(理由)	1
ホド(する～)	1
ンジャ(のだ)	—1
グライ	1
ケンド(逆接)	1
ノニモ	1
ノニワ	1
ヨーナ(ようだ)	1

注(動詞・形容詞・用言につく付属語)

1) c. イタ(テ0), l. イテ(テ0), m. イトル(2a), o. イタラ(2a), p. イタリ(2a)。

2) b・t 以外はⅡ甲に同じ。3) c. オイダ(0b), d. オイガン(0b), l. オイデ, m. オイドル(3b), o. オイダラ(3b), p. オイダリ(3b)。

4) c. モンタ(0b), l. モンテ(0b), m. モントル(3b), o. モンタラ(3b), p. モンタリ(3b)。

5) 前稿 p.19 L-8 参照。6)

「居る」と「言う(結う)」, 「往ぬる」と「死ぬる」は, 高見島では区別不要だが, 祖形では活用形によりアクセントが異なるゆえ, 両方示す。この方法を徹底するなら, Ⅲ「懷

く」の類(中井1984bで○印で示したもの)なども別に示すべきであるが、省略。「為る、来る」は「着る」に準ずるが、次のものに注意。d. セン、コン(ともにテ0), e. セナンダ、コナンダ(ともに2a), f. シラレル(テ3), サレル(2a), コラレル(テ3)(gも同じア), h. サス(1), コサス(2a), j. サシタ(1), コサシタ(2a), s. セーヨ(1), コイヨ(1), t. スナヨ(2a), クナヨ(2a), u. 失。7) 5段活用のワア行はウ音便。Ⅲ以上ではウ音便にかぎり長音化せず。バ・マ行は撥音便のみ。サ行イ音便なし。8) 真鍋式アクセントでは、以下の活用形未調査の地点あり、e以下略。また注2参照。9) e以下の活用形未調査ゆえ、dで打切り。10) ...ザッタ(未然形接続)も。アクセントは同じ。11) 「可能動詞」以外の形でも possible の意あり。12) 「ヨ」は終助詞。主に同輩目下に。目上には「ヤ」(アクセントは「ヨ」をつけた場合に同じ)。終助詞をつけないと、話者が言いにくいと言うので、つけた形で調査。祖形はつけない形のアクセント。13) 真鍋式アクセントは「着な」ゆえ、祖形不明である。14) 終助詞「カ」をつけないと、話者が言いにくいと言うので、つけた形で調査。祖形はつけない形のアクセント。15) Ⅲ=2類は、通時的には、1類との区別を失う途上にあるか。Ⅳでは、1・2類の区別なし。16) d以下の活用形未調査ゆえ、cで打切り。17) 次の付属語は、用言についた場合も、名詞についた場合(前稿1.3節)に同じ: カ(疑問終助), ノ(準体), シカ(限定), ダケ(限定), ラシー(推定)。

〔6 モーラ名詞〕

6 = 0a 当たりさわ(り)が(ない), 洗(い)な(お)し, いた(ず)ら(者), 至(と)こ(ろ), 一(し)じ(間)目, 一(り)ん(前), 鶯(さ)し(色), 移(り)か(わ)り, 生(ま)れ(か)わ(り), 裏(き)り(者), 御(ご)稽(ぎ)古(こ)事(じ), 男(お)っ(ぶ)り, 重(お)く(し)さ(し), オ(レ)ン(ジ)色(いろ), 片(か)あ(し)跳(は)び, か(た)づ(け)物(もの), キ(リ)ス(ト)教(きょう), 幸(さい)せ(者), 使(つか)い(づ)る(古), 使(つか)い(易)さ(し), 羽(は)織(お)袴(はかま) (0a+0aが普), 働(はたら)き(口)(テ0もか), 張(は)り(き)り(す)ぎ, 火(ひ)の(用)心(しん), 開(ひら)き(な)お(り)。(○「○○○○○○<」)

6 = 0b 案内(あん)状(じょう), 一(いっ)万(まん)人(にん), 往(い)生(じ)際(さい)(オージョギワ 0b), 剃(は)り(刀)負(ふ)け, 考(かん)え(か)た, 考(かん)え(事), 共(き)産(さん)党(たう), 骨(こつ)董(とう)品(ひん), 最(さい)新(しん)型(がた), サ(ン)ダ(ル)履(は)き, 三(さん)面(めん)鏡(きよう), 死(し)に(損)な(い), 十(じゅう)一(いち)月(げつ), 正(せい)直(ちく)者(者), 神(しん)経(けい)痛(い), 雑(ざつ)巾(ぎん)が(け), 通(つう)行(ぎやう)止(どめ), 法(はふ)蓮(れん)草(そう)(3bも), ま(ぐ)れ(当)た(り), 名(な)人(にん)芸(ぎ)(5bもか), 遺(い)言(ごん)状(じょう), 結(けつ)納(なつ)金(ぎん)。(「○○○○○○<」)

6 = 1 八(はち)幡(ばん)さん。(「〇〇〇○○○○<」)

6 = 2a ウエー(う)ト(と)レス(る), お(お)て(ん)と(と)さん(さん), ス(パ)ゲ(ゲ)ッ(ッ)ティー(ティー)(スパゲキ 2a), チャ(ち)ラン(らん)ボ(ぼ)ラン(らん)(2a+2aが普。い(い)か(げ)ん)。(○「〇〇〇○○○○<」)

6 = 2b 欠。(「〇〇〇〇○○○○<」)

6 = 3a ア(ア)ナ(ナ)ウン(ウン)サー(さー), 荒(あ)れ(放)題(だい), 伊(い)勢(せい)神(しん)宮(みや), 芋(い)焼(や)酎(しゅ), 色(いろ)鉛(えん)筆(ひつ), 色(いろ)気(き)違(ちが)い, 歌(か)番(ばん)組(ぐ), 上(う)唇(しん), 親(おや)兄(あに)弟(てい), 親(おや)孝(こう)行(ぎやう), 北(きた)ア(ア)メ(メ)リ(リ)カ(カ), ×(×)口(く)約(やく)束(そく), 粉(こな)お(お)しろ(しろ)い(コオシロイ 2a), 下(した)唇(しん),

下ごしらえ, 下働き, 濡れ雑巾, 腹ごしらえ, ×右半分。(○「○○○」○○○△)

6 = 3b 一年間, 一年生, 運動会(ウンドカイ 3b), 運動靴(ウンドグツ 3b), 大喜び, 回覧板, ×ガス中毒, ガス爆発, ×紙風船, ×菊人形, 行商人(4bも), 京阪神(4bも), 敬老会, 講演会, 厚生省(4bも), ゴム手袋, ×ゴム人形, ×ゴム風船, 最終回, 裁判官, 小学生(4bも), 小学校, 食中毒, 大学生(4bも), チンパンジー(チンパンジン 3b), 低血圧(4bも), 飲み放題(テ3も), パイナップル, 優等生, 郵便局。
(「○○○」○○○△)

6 = 4a 遊び相手, 頭ごなし, 一二時間, 田舎育ち, 稲荷神社, 命知らず, 命拾い, 薄紫, 男狂い, 男心, 御化け屋敷, オリンピック, カラーテレビ, ガラスコップ, ガラス磨き, 記念写真, 清水寺(京都の), クリーニング(クリニング 3a), クリームパン, 毛生え薬, 心当たり, 心づかい, 心残り, 言葉づかい, サラダ油, 時間つぶし, 四十九日, 時代遅れ, 枝垂柳, スポーツカー, その日暮らし, 宝探がし, 卵料理, 力仕事, 茶飲み話, 手抜き仕事, テレビドラマ, トランペット(...ベット), 仲間はずれ, 日本舞踊, 日本料理, 眠り薬, 残り時間, 機織り賃, 話し相手, バレーボール(テ4も), 一人息子, プラスチック, みかん畑, 休み時間, 柳行李, わさび醤油。(○「○○○」○○○△)

6 = 4b 油炒め, 油汚れ, 阿弥陀如来, 安全ピン(5bも), 一万円, インスタント, 大売り出し, 大金持ち, 音楽会, 女遊び, 女子供(オナゴコドモ テ4), 甲斐性なし(カイシヨナシ 4b), ×ガラストーブ, 狐うどん, 休憩室, 急病人, 金魚掬い, 結婚式, 玄関口, 県人会, 玄米パン, 高血圧, 氷砂糖, 氷枕, 懇談会, 先おとつい(一昨昨日), 先おとどし(一昨昨年), 桜並木, 十年間(3bもか), 吸取り紙, 成人式, 青年団, 煎じ薬, 草履袋, ソフトボール, 大工道具, 窒素肥料, 天気予報, でんでん虫(蝸牛), てんとう虫, 動物園, 道路工事(テ4も), ハンドバック, ひいじいさん(ヒージー 1), 袋叩き, 暴力団, ポプラ並木, 明治時代, ヨードチンキ(ヨーチン テ0)。(「○○○○」○○○△)

6 = 5a アフリカ産, アメリカ産, あべかわ餅(アベカワ 0a), アメリカ人, イギリス人, いたずら好き, 蒲鉾板, 草刈り鎌, 自動車事故, スペイン人, トラック便, 泥棒猫(ドロボネコ 4a), フランス人, 前売り券, 物干竿。(○「○○○○」○○○△)

6 = 5b 油っこさ(0bもか)(アブラゴサ 4b. 0bもか), アンボンタン, 一膳飯, ×一日置き(テ4も), 一番乗り, 運動場(ウンドジョー 4b), 大安売り, 買い物籠, ガスもれ事故, 観光バス, 寒暖計, 牛乳瓶, 交通マヒ, こうもり傘, 御機嫌とり, 十年前, 商売人, 食料品, 神経質, 大根足, トンネル事故, 入道雲, 弁当箱, 万年筆, 郵便箱, 練習帳。(「○○○○」○○○△)

6 = 6a スエーデン語(0a, 5aも)。(○「○○○○」○○○△)

6 = 6b ポルトガル語(0b, 5bも)。(「○○○○」○○○△)

6 = テ0 お互いさま, 外国行き, 書き間違い, 勝ちっぱなし, かんかん照り (カンカチデリ テ0), ギューギュー詰め, 三階建ち, 水道代 (テ5 も), 洗濯物, 天神さん, 絆創膏 (バンソク テ0), 古道具屋, 文房具屋, 掘り出し物。 (○○○○○○◁...)

6 = テ3 後かたづけ, 磯巾着, 糸ぐんにゃく, 紙鉄砲, 漢方薬 (カンボヤク テ3), 絹織物, 旧正月, 高校生, 粉石鹸, 金輪際, 殺虫剤, 殺風景, サラリーマン, 三角形, 三十年, 三等賞, 重労働, 松竹梅, 消防団 (テ4 も), 新幹線, 真言宗, 新発売, スチュワーデス, 瀬戸内海, 太平洋, 中学生 (テ4 もか), 中学校, 宙ぶらりん, 出刃庖丁, 飲み友達, 肘鉄砲, 古新聞, 水鉄砲, 水羊羹, 落第点 (テ5 も), 龍宮城。 (○○「〇」○○◁)

6 = テ4 苺畑, 苺ミルク, 一時のがれ, 後ろ姿, お国自慢, お玉じゃくし, お花畑, 辛子醤油, カレーライス (ライスカレー テ4 が普), 代わりばんこ, 葉問屋, 食わず嫌い, 警察官, コーヒー豆, 子供相手, 子供だまし, 自分勝手, 自慢話, 蝨つぶし, 選挙違反, チキンライス, 椿油, 手提げ鞆, 電気工事, 隣近所, 隣同志, 鼠小僧, 年賀葉書, ハイシライス, 畑仕事, 離ればなれ, 左回り, 普通列車, 蒲団袋, 坊主頭, 枕カバー, 昔なじみ, 昔話。 (○○○「〇」○○◁)

6 = テ5 当てずっぱー (... ポイ), 受け取り人, 尾頭付き, お地藏さん, お多福風邪, オタフクグサ (むらさきかたばみ), 外国人, 観音さん, きりきり舞い, 月給取り (人。ゲッキュトリ テ4), 見物人, コーヒー好き, 裁縫箱, 信号無視, 心臓麻痺, 新聞記者, すっからかん, 洗濯^{ダク}板, 橙色, てんてこ舞い, 井鉢, 南京虫, にこにこ顔^{ハム}, 蠅取り紙, 働き口, 人さし指, ペンペン草 (かたばみ。なずなに非ず), 松喰い虫, 紫色, やきもち焼き (嫉妬する人), 嫁入り先。 (○○○○「〇」〇◁)

6 = テ6 遊びがてら (4a も)。 (○○○○○○「〇」◁)

「真鍋式アクセントについて」(『言語研究』86) 正誤表

『言語研究』87, 『言語学研究』3 にも, すでに正誤表を掲げたが, 不備が多いので再掲する。ページ数に×印を付したものは, 前に誤りがあったもの。*印を付したものは脱落していたもの。無印は, 前の正誤表と同じ。

ページ	行	誤	正
69	ー 5	図 1 に	図 1 (p. 102) に
71	表 1. 3	松原照子	杉原照子
71	注 2)	注 10	注 11

ページ	行	誤	正
71	注3) - 11	従事してゐる	従事している
*72	- 3、2=テ2の欄	コノ〇〇◁...	コノ〇〇◁...
72	注5)	表16に	表16 (p. 100) に
*73	表2, 1=0のC欄	〇(〇)◁	〇(〇)◁
75	11	問題になるものはない	問題になるものはない
*76	表4, 1=1類の真鍋式の欄	〇(〇)◁	〇(〇)◁
*78	- 1	「唾液」	「唾液」(ツバキ)
×80	13	n と n'	1 と 1' ... n と n'
×80	注16)	「3=0と3=0'の関係は次のようである。3=0:〇〇B, 〇〇狭。3=0':〇〇広。」を末尾につけ加える	
*81	表7, 2=0のd欄	〇〇ニ...	〇〇ニ...
82	- 4左端	アノ〇〇	アノ〇〇
82	最下行左端	アノ〇〇◁	アノ〇〇◁
84	注21)	注17	注18
84	注22)	注16	注17
×85	表8.3, 2=1の例	線を右端まで伸ばして, 〇〇◁◁にする。	
*86	9	〇〇◁	〇〇◁
86	- 5	な1お'	なお1'
87	表9.2 d欄	〇〇◁...	〇(〇)◁...
87	表9.3	(3類)手, 火	(1.3類)蚊, 手, 火
87	表9.4	(1.2類)蚊, 葉	(2類)葉, 日
87	表9.24, 5=0の下	「以下略」をつけ加える	
93	- 4	(b, f, h欄)	(d, f, h欄)
94~95		表13(見開き)の, p.95側が1行近く上にずれている部分がある。	
×96	- 2	テ2, テ3, テn型	テ2, テ3 ... テn型
×96	注34)	ハタケカラデサエモ	ハタケカラデサエモ
		(テ4α)...	(テ4α)...
*100	表16, 体言につく付属語の4つ目	カ(疑問)	カ(疑問の終助詞)

ページ	行	誤	正
100	表 16. -13	(右端=真鍋本浦の列, イワ 1 の行) -1	
101	-3	N型アクセントの一般性	N型アクセントの一般特性
*102	地図	地点名の表示が, 現実の位置からずれているものがある (善通寺など)	
103	注 2	示した,	示した。

「真鍋式アクセントの所属語彙」(『言語学研究』3) 正誤表

ページ	行	誤	正
84	左-12	弦(希) 蔓	弦(希. 蔓なら 1)
84	右-3, (する~)の佐柳の欄	0, -1	0, -1'
85	左 12	(飲む~)	(飲むモン), ここではモン のアを示す。
93	右 17 の下	(テ3 の人も)は佐柳「三千」への注	
97	右-4	舐め	舐め
97	右-3	恥し	恥じ
98	左 1	歌う	トル((2 行目と重複))
100	左10, 「写した」の志々の欄	3	2
102	右 4, 「着とった」の広島欄	3	2
104	右9, 「着そーな」の広島欄	3	2, 3
104	右-6	「遠い」は, 他のⅢ-1 の語彙の音調と異なり, 「その他」の「濃い」(コーイ)と同じ音調。但し, 「トーイ」の他に「トイ」があるかどうか未詳。	
105	右 7	「嬉しい」の欄トル((右 1 と重複))	
110	10, 12	注 15	注 16
112	9	1 モーラと 2 モーラ	第 1 モーラと第 2 モーラ
114	-1	筆者の耳には,	筆者の耳には, とくに前に 「この」などを置かぬ場合に,

その他。「言う」の語頭モーラは、b. c. l. m. n. o. p. t. で「ユ」。他の活用形でも「ユ」があるかもしれないが、「イ」で調査。長母音の表記が不統一であるが省略。対応・不对応に分けたのは、主に紙面節約のため。対応のすべてを網羅したものにあらず。p.110 以下の、音調の 5 段階表記は便宜上のもの。

「香川県高見島のアクセント」(『国語研究』48) 正誤表

ページ	行	誤	正
14	－ 4	a 系列と b 系列では	トル
〃	〃	同一のアクセント	同一のアクセント素
15	表 2	4 = 2a, 3a, 2b, 3b の欄に, ㄣ が太く見えるが, 意味はなく, 通常の下降を示す。	
17	－ 10	色々ななしベル	色々なレベル
23	表 7	2 モーラ 2 類の中間段階の欄, 下側	
		1 a'	1' a
29	－ 11	アクセント調査表 B	アクセント調査票 B
30	注 1	類にも, 形容詞にも	類には,
30	－ 8	二度目	二皮目
30	－ 5	実全	完全
31	－ 1	「芦」	「芦と梅雨」
34	14	思恵	恩恵
36	－ 11	ではテ0。	ではテ0,
42	－ 1	ドビン	ドヒン
43	－ 6	烏賊釣り	烏賊釣り(イカツリ)
44	10	詫児所	託児所
50	15 と 16 の間	「V モーラ」を挿入	
53	4	ちぢれ髪	トル